

2.【理事会報告】

第3回理事会 議事録

日時 平成12年4月22日(土)

場所 明治大学駿河台校舎研究棟第3会議室

出席者 安孫子 麟、高橋 明善、熊谷 苑子、北原 淳、藤井 勝、大内 雅利
吉沢 四郎、市田 知子、小内 純子、黒崎八洲次良、佐藤 直由
杉岡 直人、堤 マサエ、鳥越 皓之、中道 仁美、東、敏雄、細谷 昂
矢野 敬生、米沢 和彦、渡辺 正、池上 甲一(代理) (21名)
欠席者 青木 辰司、古賀 倫嗣、白樫 久、松村 和則 (4名)

1、2000年度の学会大会について

今年度の大会担当の中道会員より日程等の報告があった。

(本号1～3ページ参照)

2、各種委員会よりの報告

(1)「年報」の編集について

藤井委員長より次のような報告があった。

- ①『年報』第36集の正式な表題は、副題をつけ、『日本農村の20世紀システムー生産力主義を超えてー』に決まった。またこの間に論文の自由投稿はなかった
ので、第36集は「共通テーマ」に関する依頼論文7本と、「研究動向」論文5

本で構成されることになった。

- ②「共通テーマ」関係の論文は5月のGW明けには出そろふ予定である。提出された論文については査読・修正作業を行い、その他の原稿とともに6月末には出版社へ入稿し、10月末の刊行をめざす。
- ③年報編集委員長を渡辺正会員に交代することを決め、理事会でも承認された。任期は2001年秋までである。現委員長の藤井会員が本年9月より半年間外国出張することになったためである。

(2) 「ジャーナル」編集について

大内委員長より次のような報告があった。

- ①村研ジャーナル12号は、2000年3月に発行。
- ②13号は、2000年9月発行の計画で作業を進めている。これまで、論文が多くて書評の掲載を見合わせていたが、13号は書評のページが増える見込み。
- ③ジャーナルの論文の抜き刷りは、現在はしていないが、希望があるので発行元と話し合う予定。

(3) 学会賞について

吉沢委員長より、まだ推薦がなされていないので、ぜひ推薦をお願いしたい旨の報告があった。

(4) 研究委員会

2000年度のテーマセッション「日本農業・農村の史的展開と転機に立つ農政」の準備の進捗状況については、前任の委員長の北原会員より報告があった。

熊谷委員長より、2001年度のテーマセッションと、2002年度の50回記念大会の構成案について、研究委員会において協議中であることが報告された。

地区研究会は、北海道地区は4月に開催したことが小内会員より報告された。

(5) 国際交流委員会

北原委員長より次のような報告があった。

- 1) 北原・河村・池上委員による数回の準備作業の結果について。

- ①2004年XI回IRSA大会の日本招致(京都・龍谷大学深草キャンパスにて7月末から8月初に開催予定)に関する事務的文書を、モルナー会長から指示

のあった形式に従い、北原・河村の責任で作成し、会長および会場選定担当のコバッチ理事に送付した。

②大会当日までの準備日程について、池上委員（河村実行委員長代理）より、第1段階（組織委員会準備会発足等）、第2段階（組織委員会発足等）、第3段階（サーキュラー送付、登録開始、宿泊予約等）、第4段階（大会当日、残務整理等）の4段階の予定作業スケジュールが報告され、当面の活動費をどうするか問題提起があった。

③組織委員会準備会委員の候補者について、関西地域の会員を中心に、河村、北原、池上、鳥越、満田、嘉田、秋津、藤井（勝）、細谷、黒柳、安孫子、高橋、磯辺の13名（役省略）、の提案があった。審議の結果、大筋を承認し

1 当初IRSAリオ大会以前に予定していた準備会の発足は、招致が確定した8月以降に延期する

2 当面必要な活動費はさらに詰める、等を決定した。

2) 2000年7月30日－8月5日にブラジル・リオデジャネイロのグロリア・ホテルで開催される第10回IRSA大会について情報交換を行い、日本から11名の報告者が登録され、20名以上の参加者が予定されていること、日本招致の説明に日本学術会議（社会学研連）代表として研究委員長（北原）が行き、IRSA常任理事の鳥越・満田とともに、事務的説明を行うこと、等が確認された。

(6) 入会者・退会者の承認

(「会員動向」の欄参照)

(7) 2001年度の学会大会について

東海地区の渡辺、交野両会員を中心に、静岡県で開催することで了承された。